

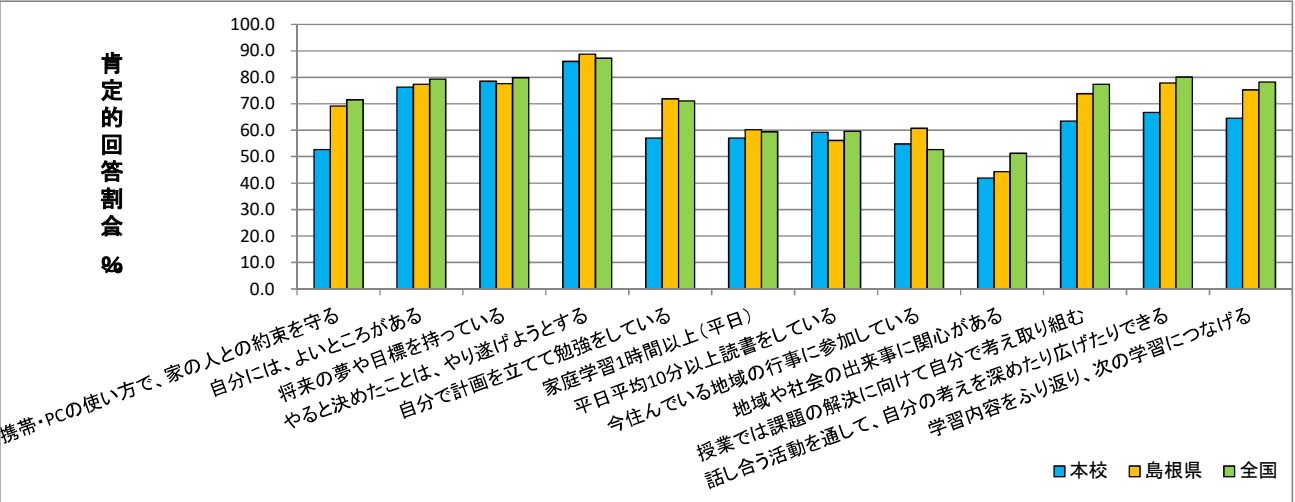
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○基礎的な国語力が定着している。 ○正答率の上位層が厚く、書く力がある程度身に付いている。 ●条件や題意に即した文章を書くことが難しい。 ●正答率の中間層を引き上げる必要がある。	・問題文を読む際には、何が問われているかを確認した後に提示された文章を読む習慣を付ける。 ・学習の中で、自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・多くの文章に触れ、語彙力を伸ばすことにもつながるような読書指導を行う。
算数	○無回答が少ない。基礎的な知識・技能は身に付いている。 ●割合の概念を確実に理解できていない。 ●限られた時間の中で、知識・技能を生かす力が弱い。	・図で考える力や、算数用語から視覚的にイメージする力を付ける。 ・生活と算数をつないで考え、学習したことを活用できるようにする。
理科	○前回調査より10ポイント高い。 ○自分の考えを書くことができている(考えを表記する力)。 ○実験器具の名称を覚えている。 ●実験器具の正しい使い方を理解できていない。 ●学力の二極化。	・しっかり文章を読み取り、大切なことを探せる力を付ける。 ・知識・技能を課題解決のために選択できるようにする。 ・授業の中に、活用場面を積極的に取り入れるようにする。

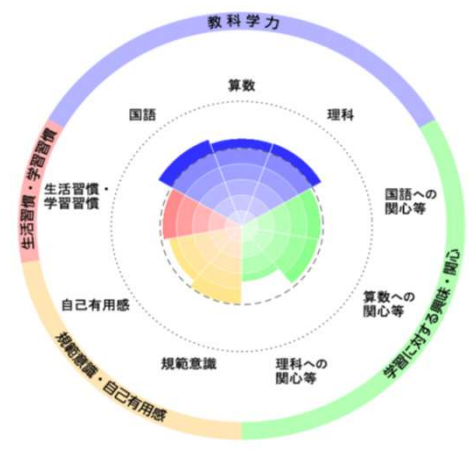
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○基本的な生活習慣が身に付いている。 ○人との関わりを大切にすべきであると考えている児童が多い。 ●自分で計画を立て家庭学習を進めている児童の割合が低い。 ●話し合い活動に対する意欲や、学んだことを学習に生かそうとする意欲が低い。	・学習したことが他の学習や生活につながっていることを意識付けていく。 ・集団で話し合ったり、協力して活動したりするよさを味わえる場や内容を設定する。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・読書習慣を身に付け、読書の質の向上を目指す。
- ・条件やねらいのある文章の読み・書きに慣れる。
- ・自分の成長や付けた力を振り返る時間を確保する。

【受検者数】
93 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。